

うぐいす



正しい日本語よりコミュニケーション力

1月14日に「丸森町生涯学習推進町民のつどい」が丸森まちづくりセンターで開催されました。学校活動や生涯学習活動などの発表、小中学校や住民自治組織や役場各課などの展示があり、生涯学習の活動がいきいきと報告されました。

また文化講演会では「世界一受けたい授業」などでおなじみの日本語学者金田一秀穂先生にお越しいただき「世界一受けたい日本語授業」というテーマで講演していただきました。

先生によると、「正しい日本語を話さなければいけない時はあるが、いつもそうであるとは限らない。相手のことを考え、思いやり、出てきた言葉は素敵な日本語である。」と話していました。先生のお話の中から例の一つ紹介しますので、みなさんも想像してみてください。



A 夫「ただいま帰宅しました。」
妻「おかえりなさいませ。
あなたお話がございます。」



B 夫「ただいま～」
妻「おかえりなさい。
ちょっと聞いて！聞いて！」




AよりBの方が聞き慣れていて心地良いと感じる方が多いのではないのでしょうか。

このように、正しい日本語より、相手を不快にさせない話し方、つまりコミュニケーション力が大事なのだと先生は話されていました。

最後に、金田一先生から一番きれいな日本語だと思った手紙の紹介がありました。その手紙は、野口英世博士のお母さんがニューヨークにいる息子へ送った手紙だそうです。

「拝啓」もなければ「かしこ」もない。伝えたい思いだけを書いた手紙です。福島県猪苗代町にある野口英世記念館に展示されているそうなので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



耕野子ども会事業「流しそうめん」



耕野地区ではこれまで、国際協力機構（JICA）の事業でアフリカ・ザンビア共和国との交流や、研修の受け入れに取り組んできました。事業は一旦2014年12月に終了しましたが、その繋がりを元に丸森町と共同で2016年より3年間のプロジェクトとして、丸森町の昔ながらの農業技術の紹介などを通じた「国際技術協力」と同時に波及効果として丸森町の活性化を目指した計画に取り組んでいます。

今年度は7月末から8月上旬の2週間に2名の研修生が訪れたほか、5名の研修生が9月9日から1か月間を丸森で過ごしました。研修生はキノコの菌床栽培や養蜂、野菜作りなどを体験し、学びました。8月7日には耕野小、大張小、大張児童館の児童が集合し、夏休み恒例の「流しそうめん」を開催しました。ザンビアの研修生も参加し、初めての流しそうめんに感激していたようです。

1月21日には丸森短期専門家チームとして5名がザンビアへ出発しました。地域と世界を繋ぐ耕野振興会がこれからも楽しみです。



「丸森・ザンビアプロジェクト」
小学校との交流会

2月のこよみ

- 2月 4日(日) 丸森町体育功労者・功績者表彰式(丸森まちづくりセンター)
- 2月11日(日) 丸森町民俗芸能鑑賞のつどい(丸森まちづくりセンター)
- 2月17日(土) 台町遺跡・台町古墳群発掘調査成果報告展(まるもりふるさと館)
～3月18日(日)
- 2月17日(土) 女性講座「お料理教室」(丸森まちづくりセンター)
第4回町外芸術鑑賞(落語)(えずこホール)
- 2月18日(日) 仙南青年フェスティバル in しばた(柴田町)

